

### 相談ケース②（概要）

里美さん（14歳、中学校2年生）は、最近、遅刻や欠席が目立っています。入学した直後から、学習の遅れが目立ち、学校を休みがちとなりました。最近では、生活リズムも崩れているようで、休み時間には人目をはばからず机に突っ伏して寝ている等の様子も見られます。

里美さんの様子を心配した担任教諭が、里美さんから話を聞きました。里美さんは、「中学に入って授業についていけず、相談できる先生や友だちもいなくて、学校に来るのがつらくなった。高校に行きたいけれど、何をどう勉強したらよいかわからない」と語りました。また、「父親がほとんど働かず、母親が朝から晩まで働いていて、家に帰っても一人ぼっちだから誘われると遊びに出てしまう」ということも話してくれました。

里美さんの担任教諭は生活指導教諭と一緒に、母親と面接をすることにしました。母親の恵子さん（46歳）は、パートの昼休みの時間に中学校に駆け付けてきました。恵子さんと面接をしたところ、「娘の素行が乱れていて、最近は夜になると遊びに出かけて明け方まで帰ってこない日もある」等の状況を大変心配していました。しかし、「夫の仕事がうまくいかなくなって以降、家計を支えるために三つのパートを抱えてとても忙しい毎日を過ごしているため、自分のことで精一杯だ」と語りました。また、「自宅で夫と口論が絶えないため、その様子を見て娘が自宅にいたくなくなったのだろう」と、娘の気持ちを察していました。

生活指導教諭は恵子さんに自立相談支援機関について情報提供し、「家族の生活再建のために相談してみたらどうか」と提案したところ、恵子さんは「そんなところがあるとは知らなかった。夫の仕事のことなどについても相談できるならお願いしたい」と話しました。生活指導教諭は、再度、学校で面接を行うこと、その際には自立相談支援機関が同席して恵子さんが直接相談できるよう、連絡しておくことを母親に約束しました。

今回の面接では、自立相談支援機関の相談支援員が相談支援の目的や具体的なすすめ方等を説明して恵子さんから改めて相談申し込みと関係機関と情報を共有することについて同意を受けた後、恵子さんから家庭の状況を聞き取りました。

### 面談の逐語録（当日、DVDを併せて視聴）

- 1 生活指導教諭（以下、教諭）：宇都宮さん、今日は来てもらってありがとうございます。こちらがお電話でお話をした、山田さんです。
- 2 相談支援員（以下、支援員）：どうもこんにちは。自立相談支援センターの宇都宮です。
- 3 相談者：よろしく申し上げます。山田です。今日はわざわざ来てもらってすみません。
- 4 支援員：いえいえ、とんでもない。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 5 教諭：それで早速なんですけれども、山田さんの娘さんが不登校の生徒でして。最近、まあ学校を欠席したり、出てきても授業中居眠りをしたり、なんてあるものですから、お話を伺ったら、ご家庭がいろいろ大変ということで、一番はお父さんが働いていないということなんですけれども。それを何とかしなきゃということですね。
- 6 相談者：そうなんですよね。夫が働いてなくて、家計がきびしくてですね。
- 7 支援員：なるほど、そうですか。なかなか大変ですね。私たちのほうで力になりたいと思いますので、相談していきましょう。
- 8 相談者：ありがとうございます。
- 9 教諭：それじゃそういうことで、あとはお願いします。
- 10 支援員：わかりました。山田さん、よろしくお願いします。

(教諭退室)

- 11 支援員：そうしたら改めて、よろしくお願いします。
- 12 相談者：お願いします。
- 13 支援員：お父さんが働いていないということなんですけれども、もうちょっと詳しく聞かせてもらえますか。
- 14 相談者：はい、今夫が働いていなくてですね、私がパートで働いているんですね。で、まあそれで忙しくて、家にあまりいないもんですから、そのせいか娘がちょっと荒れ気味というかですね、そういうふうになっていて。学校にご迷惑をちょっとおかけしてしまってですね、それでなんていうか、その一、呼び出されて、しまってですね。何とかしたいとは思っているんですけど、私も忙しくて、なかなか娘と顔を合わせる時間がなくてというような、そういう感じですね。はい。
- 15 支援員：なるほど、そうですか。大変ですね。えーと、お父さんはいつから働いていないんですか。
- 16 相談者：1年ぐらい前からですね。それまで夫は飲食店をやってたんですけど、それがつぶれてしまって。
- 17 支援員：なるほど、飲食店ってどんな。

- 18 相談者：ラーメン屋です。
- 19 支援員：つぶれたっていうのは経営がきびしくなって？
- 20 相談者：そうですねえ。2年ぐらい前に、うちの斜め前のレストランが廃業しまして。で、まあそのあと、その空いたところにチェーンのラーメン屋さんが入ってきちゃったんですね。で、それでそちらは安いもんですから、けっこうお客さんをとられてしまったというか。
- 21 支援員：なるほど、それで経営が悪化したということなんですね。
- 22 相談者：うん、そうですねえ。
- 23 支援員：それからお父さんは再就職の活動をしたりとか、そういったご様子はどうですか？
- 24 相談者：うーん、ま、つぶれて、その店をたたんですぐのころは、ハローワークにいったみたいです。ただ、何度かいったようなんですけど、そのままいなくなってしまうって。
- 25 支援員：就職活動のこと、何か話していましたか。
- 26 相談者：うーん、何も。ただ帰ってくると、まあ落ち込んでいるようには思いましたね。主人はずっとラーメン屋できて、他の仕事って言われても難しいと思うんですよね。
- 27 支援員：ずーっとラーメン屋さんなんですか。
- 28 相談者：はい。あの、もともとは夫の両親がやってたお店で、それを手伝ってたんですね。両親が高齢ということで、それで夫のほうがあのお店を継いだんですけども。
- 29 支援員：なるほど。他にアルバイトぐらい、お仕事をしたりとかというのはないですか。
- 30 相談者：うーん、友人の店をたまに手伝いにいってるみたいですね。
- 31 支援員：そちらに雇ってもらおうという話にはならないんですか。
- 32 相談者：うーん、聞いたことないですねえー。ただ、同じ商店街のお店なんですけど、個人店は今どこもきびしいんで。一人雇う余裕があるかなあー。難しいんじゃないでしょうかね。
- 33 支援員：なるほど、そうですね。でもお母さんも仕事だけじゃなくて、家事や育児もあって大変だし、お父さんに働いてもらわないと困りますよね。

- 34 相談者：そうなんですよ。ま、どうしたもんか、私もちょっと辛くて。
- 35 支援員：私たちもぜひ、お父さんにお会いして、仕事のことを聞いてみたり説得してみますよ。これまでラーメン屋をやっていた実績を活かして働けるところを探してみたり、場合によっては違う分野に職業訓練を受けて転職する方法もありますから、何とか考えていきましょう。
- 36 相談者：ありがとうございます。娘もまだまだお金がかかりますので、心配ですね。
- 37 支援員：そうですね。お父さんが働くようになれば家計も楽になりますよね。あの、ところでお父さんはラーメン屋をやっていたころ、どんな様子だったんですか。
- 38 相談者：うーん、常連さんにかわいがられてましたね。あの一、両親の代からのお客さんも多くて、子どものころから夫のことを知っててくれる人が、まあ多かったんで。正直ちょっと頼りない二代目でしたけれども、まあ応援してやろうという年配の方が多くいらしてましたね。うーん、なんて言うか、成績はあんまり良くないタイプですけど、人懐っこいところがあって、明るい性格なので、ずっとかわいがられてましたね。
- 39 支援員：なるほど、そうですか。お父さんの長所ですね。
- 40 相談者：そうですね。こうなる前は娘も明るくて、家の中が賑やかだったんですよ。うーん、なんでこうなっちゃったかなあーって。なんかもう、夫はあまり家にいないし、家族とも顔を合わせようとしなくて、日中はパチンコばかり、今いってるんですよ。私も家にいないんで、夫が何考えてるのかわからないんですよ。
- 41 支援員：なるほど、そうでしたか。それじゃお父さんとは最近はあまりお話とかはされてないんですか。
- 42 相談者：うーん、そうですね。
- 43 支援員：仕事のこととか、就職活動のこともまったく。
- 44 相談者：うーん、私が帰るといらないか、まあ、寝てるかのどっちかなんで。聞いてないですね、何も。

( 終 )

※この相談事例は、10月8日の相談支援員養成研修(後期)の中で使用されたものです。